

第65回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）会議記録

日時 令和7年9月18日(木) 13時30分～14時10分

会場 新津医療センター病院 大会議室

参加者 15名 欠席11名

今回より在宅系サービスの代表者として3名の方々が加わった。

小規模多機能ホームあきは・武田様、健幸デイなろて場・小日向様、ウエルケア新津湯田様

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・連携手帳の供給状況について 事務局

秋葉区健康福祉課に聞いてみたところ供給は順調に行われており、問題はないとのこと。包括にも供給されているかと思われる。

- ・今回より在宅系の3名の方々が委員会に加わった。

デイサービスではヘルパーからの情報が得やすく良く活用されている。

独居でも活用は大半出来ている。

バイタルや水分量は測定していない人が多い。

2. 連携手帳の発展的活用について

事業所によって使い方が違う。1日1枚で全て網羅されていると見やすいが。

全体の意見

見やすさからすると1日一枚で日めくりの方法はあるが厚くなるというデメリットも伴う。手帳発足時に議論された部分。

3. 新潟市 IT 連携

スワンネットの現状と未来、講演会の開催 事務局より説明

9月11日、連携運営委員会にて説明し、進めていくことに合意を受けている

内容である。以下のとおり。

- ・新潟市のスワンネットの現況について新潟市医師会より別紙資料を見繕ってもらい提供してもらった。

直近に行なわれたスワンノート説明会に参加させて頂き、初期の頃と比べて遙かに進化していることがわかった。特にノートでは利用者本人も家族も入れた連携が可能で、手帳に近い形での運用も可能となる。

資料のとおり新潟市内の中でも中央区や西区、東区では運用が進んできている。

秋葉区や南区はやや遅れている。

スワン救急などオブションも立ち上がりつつあり、IT化に向けた動きはますます進行するものと考えられる。

秋葉区では、下越クリニックの兒玉先生、千手先生が中心となり現実的に訪問看護やケアマネを巻き込んだ取り組みが始まってきている。

やはり、利用業者が増えないと連携メリットも少ないので拡大できるように連携運営委員会としても進める時期ではないかと感じている。

意見

- ・無料で使用できることからセキュリティの問題などが出てきている。
- ・利用料負担をどうするか

などなど課題はあるが、手帳委員会に於いても連携運営委員会と同様に推進していく事が合意された。

3 次回の手帳委員会

令和7年12月18日（木）13時30分～

会場 新津医療センター病院 大会議室

以上